

第5学年 道徳学習指導案

日時 平成16年11月26日(金)5校時
児童 男13名 女10名 計23名
指導者 吉田 正樹

- 1 主題名 責任を果たす 4 - (1) 社会的役割の自覚と責任
- 2 資料名 「係の仕事」 (自作 「残った仕事」東京書籍を参考にして)

3 主題設定の理由

価値について

道徳の第5学年及び第6学年の指導内容の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)に、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」とある。この内容は、身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たす児童を育てようとするものである。第1学年及び第2学年の指導内容の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)「みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る。」、第3学年及び第4学年の指導内容の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)「約束や社会の決まりを守り、公德心を持つ」と比べて、児童の自主性や主体性を高めるものとなっている。

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことは、集団と個のかかわりの基本的なものである。自分さえよければいい、他の人のことは関係ない、他の人とコミュニケーションをとるのが面倒であると考える子が少なくない現在、個が身近な集団に自ら関わり、その集団に協力することによって集団全体が成り立ち、活動がよりよいものになっていくことを理解させることが大切であると考え。

児童について

全体的に素直な子が多く、言われたことに対してはしっかりと取り組むことが多い。また、係活動の際に新しい仕事の内容を自分たちで考えて取り組んだり、廊下歩行や言葉遣いなどで低学年の見本となろうとしたりと、自分が置かれている立場を意識しながら生活する姿が見られるようになってきている。

しかし、自分から集団にうまく関わることが苦手なために主体的に活動することができない子や、遊びに夢中になるために係活動や委員会の仕事等、自分がやらなければならない役割に対して責任を持って果たすことができない子がいる。また、5年生になり、縦割り班での掃除のときや、委員会活動、クラブ活動等、様々な場で自分の役割が今まで以上に大きな意味を持つことが多くなったが、自分の立場や役割を意識していない子や、自分から進んで活動に取り組まない子もいる。

高学年として、また、6年生に向けて、なかよし班掃除、委員会活動、クラブ活動、学校行事等で自分の役割や責任が大きくなっていくことから、自分の役割や立場を意識し、自分から積極的に取り組む子になってほしいと願っている。

資料について

東京書籍の「残った仕事」では、主人公が正義感が非常に強く、児童にとっては主人公の考えに共感しにくく、紙面上の上辺の読み取りや解答に終わってしまうのではないかと考え、仕事をしなければいけないけど遊びにも行きたいという内容に構成してみた。

主人公は学級みんなに新しい本を読んでもらおうと、遊びたい気持ちを我慢しながら貸し出すための作業をしていた。ところが同じ係の道夫が友達から誘われて遊びに行ってしまう、自分も行ってもいいのではと思い、遊びに行ってしまう。自分が遊びに行ったおかげでドッジボールの試合でチームが勝つことができ、周りのみんなからも喜ばれ嬉しい気分で教室にもどったが、一人で黙々と仕事をしている佐代子さんを見て恥ずかしくなるという内容である。

児童にとってもこの資料と同じ様に、遊びたい心と仕事をしなければならないという心の葛藤を経験したことも多いため、自分の役割を自覚し、責任を果たすことの重要性を考えさせることに適した資料であると考え。

本時の指導にあたって

問題の把握の段階では、今までの自分の経験から、遊びたい気持ちと役割を果たさなければいけないという心の迷いを想起させ、この資料に対する興味や関心を高めさせたい。価値の追求の段階では、遊びの誘惑に負けてしまい、最後まで自分の責任を果たそうとしている佐代子さんを見て恥ずかしいと思う気持ちを十分考えさせたい。価値の主体化の段階では保護者からの手紙を読むことにより、自分の役割を責任を持って果たすことは、自分のためだけではなく周りの人の生活をよりよいものにしていくものであることをしっかりととらえさせたい。

4 本時の指導

ねらい

集団の中で進んで責任を果たし、みんなのためになることに関して協力していこうとする態度を養う。

本時の展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
問題の把握 5分	<p>1 自分たちがどのように係活動や委員会活動に取り組んでいるかをグラフから確認する。</p> <p>○みんなはどんな事を考えながら係活動や委員会活動を行っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ できることならやりたくない。 ・ 全校のためだから仕方なくやっている。 ・ みんなのためになるように頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にとったアンケートから、なぜ自分の役割を果たさなければいけないのかということに対して、課題意識を持たせるようにする。
価値の追求 35分	<p>2 資料「残った仕事」を読んで話し合う。</p> <p>朝の会終了後、係のみんなで話し合いをした後のぼくの気持ちについて考える。</p> <p>○あしたからみんなに貸し出せるようにと話し合った後、ぼくはどんなことを考えていたと思いますか。</p> <p>校庭から楽しそうな声が聞こえてきたときのぼくの気持ちについて考える。</p> <p>○校庭から楽しそうな声が聞こえてきたとき、ぼくはどんな事を考えながら仕事をしていたと思いますか。</p> <p>道夫君が遊びに行った後、外から楽しい声が聞こえてきたときのぼくの気持ちを考える。</p> <p>○道夫君が遊びに行った後、ぼくはどんな事を考えながら仕事をしていたと思いますか。</p> <p>仕事に黙々と取り組んでいる佐代子さんを見ているときのぼくの気持ちについて考える。</p> <p>どうしてぼくは佐代子さんを見て、はずかしくなり言葉が出なくなってしまったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで力を合わせて作業しよう。 ・ 学級文庫を利用する人が増えるといいなあ。 ・ 早く終わらせて、ドッジボールをしたいなあ。 ・ せっかく晴れているんだから遊びに行きたい。 ・ クラスのみんなが本を読んでくれるといいなあ。 ・ 道夫君だって遊びにいっただから、僕も行ってほしいんだ。 ・ 少しくらい仕事が遅れても大丈夫だろう。 ・ もしかしたら佐代子さん一人でも仕事は終わらんじゃないかな。 ・ 道夫君は遊びに行くなんて無責任だ。 ・ 佐代子さんはさぼらず自分の仕事をしているから。 ・ 自分の仕事もしないで遊びに行ってしまったから。 ・ ぼくは自分がやりたいことを優先したが、佐代子さんは自分のことよりもクラスのことを考えて作業しているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の気持ちを考えやすいように、紙板書を活用する。 ・ 普段の生活経験を想起させ、自分も遊びに行きたいという気持ちと、自分の仕事を責任をもって果たさなければいけないという気持ちの心の葛藤をとらえさせる。 ・ 仕事をしようと意欲に燃えていた気持ちから、自分も遊びに行きたくなくなってきている気持ちをとらえさせる。 ・ 黙々と仕事に取り組んでいる佐代子さんを見て恥ずかしい気持ちになっているぼくの気持ちをしっかりとらえさせる。
価値の主体化 5分	<p>3 保護者からの、児童が自分の役割を果たし、責任を持って取り組んでいるときの気持ちを書いた手紙の内容を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘惑に負けずに自分の役割を果たすことによって、周りのみんなの生活がよりよいものになることの大切さに気づかせる。

係の仕事

ぼく

みんなにかし出せるように

校庭から楽しそうな声

早く終わらせて、ドッジボールをしたいなあ。
せつかく晴れているんだから遊びに行きたい。
クラスのみんなが本を読んでもくれるといいなあ。

道夫君が遊びに行つて

道夫君だつて遊びにいったんだから 僕も行つてもいいんだ。
少しくらい仕事が遅れても大丈夫だろう。
もしかしたら佐代子さん一人でも仕事は終わるんじゃないか
な。
道夫君は遊びに行くなんて無責任だ。

ドッジボールで勝つてよかった

働く佐代子さんを見て

佐代子さんはさぼらず自分の仕事をして
いたから。
自分の仕事もしないで遊びに行つてしま
つたから。
ぼくは自分がやりたいことを優先したが、
佐代子さんは自分のことよりもクラスの
ことを考えて作業しているから。

ぼく

- ・ 資料名 「係の仕事」 （自作 「残った仕事」東京書籍を参考にして）
- ・ 主題名 責任を果たす
- ・ ねらい 集団の中で進んで責任を果たし、みんなのためになることに関して協力していこうとする態度を養う。

場面	朝の会が終わるとすぐ、図書係は集まった。そして、今日の放課後整理をすませ、あしたからみんなにかし出せるようにしようと話し合った。	本にラベルをはり、かし出しカードをつくるなどの作業をした。始めてみると思ったよりたいへんだった。放課後の校庭からは楽しそうな声が聞こえてくる。	道夫君はにこにこしながら、次郎君と教室を飛び出していった。佐代子さんとぼくは仕事にいつそう力を入れていた。外から楽しい声が聞こえ、次第にぼくも外の様子が気になってきた。	教室にもどると佐代子さんが何もしゃべらずに仕事に力を入れて取り組んでいた。それを見てぼくは急にはずかしくなり、何も言葉が出なくなりました。
主人公の心の変容	学級文庫を利用する人が増えるように、頑張って明日から貸し出せるように作業をしよう。	久しぶりのいい天気だったので、周りのみんなと同じ様に外で思い切り遊びたかった。	「道夫君だって遊びにいったんだ。ぼくも行ってかまわない。本を貸し出すのが1日くらい遅れても大丈夫だろう。」	外で思い切り遊べた上に、ドッジボールで勝てたので言い気持だったが、佐代子さんを見て、遊びの誘惑に負けた自分がはずかしくなった。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスみんなが借りてくれるといいなあ。 ・みんなに喜んでもらえるようにがんばろう。 ・がんばって早く仕事を終わらせよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く終わらせて、ドッジボールをしたいなあ。 ・せっかく晴れているんだから遊びに行きたい。 ・クラスみんなが本を読んでもらえるといいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道夫君だって遊びにいったんだから、僕も行っていいんだ。 ・少くく仕事が遅れても大丈夫だろう。 ・もしかしたら佐代子さん一人でも仕事は終わるんじゃないかな。 ・道夫君は遊びに行くなんて無責任だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐代子さんはさぼらず自分の仕事をしてたから。 ・自分の仕事もしないで遊びに行ってしまったから。 ・ぼくは自分がやりたいことを優先したが、佐代子さんは自分のことよりもクラスのことを考えて作業しているから。
基本発問	朝の会の後の話し合いが終わって、ぼくはどんな事を考えていたのだろう。	校庭から楽しそうな声が聞こえてきたとき、ぼくはどんな事を考えながら仕事をしていたと思いますか。	道夫君が遊びに行った後、ぼくはどんな事を考えながら仕事をしていたのだろう。	どうしてぼくは佐代子さんを見て、はずかしくなり言葉が出なくなりましたのだろう。